

令和6年度厚生労働行政推進調査事業補助金
政策科学総合研究事業(政策科学推進事業)

「DPCデータを用いた入院医療の評価・検証及びDPCデータベースの利活用に資する研究」
分担研究報告書

透析加療患者の分娩管理の動向

Trends in delivery management for dialysis patients

研究協力者 青山瑤子 (産業医科大学医学部公衆衛生学 大学院生)

研究協力者 渡邊文雄 (産業医科大学医学部公衆衛生学 大学院生)

研究協力者 得津慶 (産業医科大学医学部公衆衛生学 助教)

研究協力者 吉野潔 (産業医科大学医学部産婦人科 教授)

研究協力者 村松圭司 (産業医科大学医学部公衆衛生学 准教授)

研究分担者 松田晋哉 (産業医科大学医学部公衆衛生学 教授)

【要約】

- A. 研究目的：近年、透析患者の妊娠出産成功例は増加傾向だが、その妊娠予後は必ずしも良好とはいえない。腎機能不全や代謝異常が妊娠の転帰に影響すると言われていている。今回、我々は透析患者の妊娠及び分娩管理の傾向を明らかにするために、DPC (Diagnosis Procedure Combination) データを用いて、その周産期リスクを検証した。
- B. 資料及び方法：本研究は2018年4月から4年間のDPC対象病院における分娩入院を対象とした。DPCデータから分娩の入院データを抽出し、さらに医療行為として透析を含む入院データを診療行為コードから同定し、透析加療を受けた分娩症例を後方視的に考察した。
- 本研究は産業医科大学倫理審査委員会の承認（承認番号：第R4-046号）を得た。
- C. 結果：透析を合併した分娩入院は対象期間中に71件、平均年齢は35.2歳、平均入院日数は43.3日、入院時の平均妊娠週数は28.6週、平均分娩時出血量は1302.5ml、であった。救急車による搬送入院は22件、双胎合併は3件であった。そのうち帝王切開分娩は42件（緊急帝王切開分娩は34件）、単純子宮全摘術を受けた症例は2件であった。その他、入院合併症や続発症について検証した。
- D. 結論：透析加療を受ける妊婦は分娩時の出血が多くなる傾向があり、輸血率が高いという報告がある。本研究の結果でも出血リスクは高いことがわかった。DPCデータからは正確な分娩週数は把握できないが平均分娩週数が早産域であり、多くの症例が早産での分娩を余儀なくされていることがわかった。この結果も既報の通りであった。透析の患者の妊娠分娩管理を行う際には、早産での分娩となるリスク、大量出血のリスクがあることを認識する必要がある。

